



ぐるっとマップ

No.273 大町の縄文遺跡

保存版

マップ作成: NPO法人ぐるっとネットワーク大町

氷河期が終わり、気候が暖かくなってきた約12000年前。煮炊きをする土器や磨いた石器の発明で縄文時代が幕を開けます。この地の豊かな森と水は、狩猟採集に頼る縄文時代には好条件だったのでしょう。旧大町市内だけでも50を超える縄文遺跡がみつかります。(マップ内・EP) 今回のマップでは、この中から特徴的なものを選んで紹介します。

4. 上原遺跡 (縄文前期)

昭和27年に、大町市で初めて発掘調査された縄文時代の遺跡です。集落跡は今は水田となっていますが、縄文時代前期では珍しい、円形に柱状の安山岩を並べた配石跡が復元されており、見学することができます。この配石跡はストーンサークルとも呼ばれ、祭祀のためと推定されています。蓮華岳や北葛岳の見えるこの場所から、縄文時代の人はストーンサークルを通して、山々を神と崇めていたのかもしれない。



4 上原遺跡

5. 大崎遺跡 (6000年前、縄文前期)

竪穴式住居の跡から、粉を固めて焼いたフッキーが炭になって発見されました。フッキー状の食品としては日本で指折りの古さを誇ります。



5 発見されたフッキー

6. 山の神遺跡 (8000年前、縄文早期)

住居跡12軒のほか、東西11m、南北9mのコの字状に石を並べた配石跡が発見されました。これは山を神とした祭りの跡と考えられており、縄文時代早期の遺跡としては国内有数の規模です。出土品のうちトトロ石器と呼ばれる、磨製石器は、まだ用途がわかっておらず、今後の研究が待たれます。



6 トトロ石器

1. **クマンバ遺跡** (15000年前、旧石器時代)
大町市内で旧石器時代の石器が出土しているのは3カ所のみ。その一つが、今は青木湖北側の湖底に沈むクマンバ遺跡です。仁科三湖周辺は、長野県内で旧石器時代の遺跡が集中している野尻湖と条件が似ており、当時の暮らしや気候条件からみて住みやすい場所だったのではないかと想像されます。

2. 藪沢遺跡 (6000~5000年前、縄文前期)

今より暖かかった縄文時代前期は、一万年にわたる縄文時代の中でこの地域がおそらく最も栄えた時期であり、遺跡も多くみつかります。藪沢I遺跡からは直径7.5cmの一対の石の耳飾りがみつかり、今のところ日本で一番大きいものです。



6 石の耳飾り

3. 一津遺跡 (縄文早期~縄文後期)

縄文時代の6000年間にわたって人々が住んだ集落遺跡です。特に4300~3000年前頃には、矢じりなどの石器や勾玉などの装飾品を作っており、原石や未究成品と共に、ハンマーや砥石など加工の道具も発見されました。原料の石は、糸魚川のヒスイ、川谷・白馬の蛇紋岩、諏訪の和田峠の黒曜石など多岐にわたり、広く交易があったことがわかります。



3 一津遺跡出土品

参考文献: 『大町市史第2巻』 原始・古代・中世 頁, 1985年
『ふるさと発見 大町市の歴史』 一草舎, 2004年

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、皆様から情報をいただきながら様々な切り口で紹介してまいります。
ぐるっとネットワーク大町事務局: TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557

※このマップは、2020年12月11日付の大糸タイムスに掲載されました。
※情報は掲載当時のものです。ご注意ください。
※個人で楽しんでいただくためのものです。二次利用をされる場合にはご相談下さい。